

平成 30 年度第 1 回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議

議事録

日 時	平成 31 年 3 月 25 日（月） 10:00～12:05
場 所	八幡平市役所 3階大会議室
内 容	1 開 会 2 辞令交付 3 市長あいさつ 4 議事 (1) 会長・副会長の互選について (2) 八幡平市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について 5 その他 6 閉 会
出席者	名簿のとおり

会議の要旨	
	1 開会
	2 辞令交付
市長	3 市長あいさつ このまち・ひと・しごと創生有識者会議は、人口減少やその他地方を取り巻く危機的状況を何とかしたいという国の大きな施策として、各自治体で取り組んでいる事業です。 その中で、事務局より本市の総合戦略のこれまでの取り組みについて検証結果が説明されますが、高齢化はかなりのスピードで進んでおります。一つの光明として、八幡平市の場合転入者と転出者が大体同じか、月によっては転入者が多いという傾向が表れています。ただ、一番言えることは、出生と死亡の開きが人口減少の最大の要因であり、これさえ解決できれば、ある程度の人口は維持できるものと考えております。 加えて、人口増加に向けた様々な施策展開をしておりますが、近々公表される大規模な学校建設の予定があります。これは国際的な学校であり、世界中から学生を募集するものと伺っております。それに伴って、当然教師の方々も外国からいらっしゃるようになることから、それに付随するご家族の方、様々な関連で、もしこの構想が実現すれば、当市も大きく替わる可能性があります。また、特にも I L C が誘致できれば、誘致に向けて県を挙げて努力をしているわけですけれども、I L C と学校が密接したよ

	<p>うなまちづくりができるのではないかと期待しております。</p> <p>いずれにしても、市としては今後も人口増あるいは産業の活性化に向け、ありとあらゆるつながりを通じて積極的に取り組んでまいりたいと考えております。そういったことから、都会の第一次産業に興味をもつ企業、マイナビさんやパソナさんとも連携をしながら、都会の若者をこの地に呼び込むアイデアの協調も図っております。</p> <p>委員の皆さまにも、このようなことにご理解をいただき、様々な立場でご提言等をいただきたいと思います。本日は限られた時間ではありますが、活発なご議論をお願いいたします。</p>
4. 議 事	
(1) 会長・副会長の互選について	
事務局	<p>八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第5条の規定により、会長・副会長を互選します。</p> <p>委員の皆さまから推薦などはありますか。</p>
委員	<p>会長に小野寺委員、副会長に山本委員を推薦します。</p>
事務局	<p>ただいま、委員から会長に小野寺純治委員、副会長に山本健委員の推薦がありました。このとおりとしてよろしいでしょうか。</p>
(全委員)	<p>異議なし。</p>
	<p>会長あいさつ</p>
会長	<p>ただいま互選をいただきました、岩手大学の小野寺と申します。よろしくをお願いいたします。</p> <p>この「まち・ひと・しごと総合戦略」でありますけれども、八幡平市の場合には平成27年12月24日庁議決定で策定されております。策定にあたっては、私も一緒に入らせていただいて議論させていただきましたけれども、その中で最大の問題は、高齢化が進む中で八幡平市の場合は子供の出生率があまり高くない、全国平均、県平均から若干下回るぐらいということで、若者をどのように定着させ、出生率を上げていくかということだと思います。当時から、八幡平市は農業を中心としながら、製造業もかなり立地が進んでおりまして、産業化という点では新しくスパルタキャンプなどを導入されて起業家人材も増え始めておりますので、更に若者の定着をどう進めるかが課題だと思っております。</p> <p>これから2年間という期間、皆さまから活発なご議論をしていただく中で、今進めている戦略自体は2019年度までとなりますので、今回議論するのは折り返し地点、すぐその後5年間の計画がまた迫ってまいりますので、この計画の進捗を鑑みながら次の戦略にどのように意見を反映させていくか、そのような視点でご議論をいただきたいと思いますので、よろ</p>

	しくお願いします。
(2) 八幡平市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について	
事務局	八幡平市まち・ひとしごと創生総合戦略の概要について説明。
会長	<p>私のほうからもう一度確認ですが、平成 27 年に策定した八幡平市の人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の概要版ですが、当時の議論の内容にどんなものがあったかという、厚生労働省の社人研（国立社会保障・人口問題研究所）で、長期に子供の数がどのように減っていくかということ推計した資料があります。例えば、今 18 歳の女性が 23 歳になったときに何人子どもを産むかという計算していくと、いまの若い女性の数から将来の人口が推計できるというものです。その時に、国としては平成 72 年（2060 年）を将来において人口がどうなっていくかを計算したのですが、あまりにも長すぎるということで、八幡平市の場合は平成 52 年（2040 年）を一つのポイントにおいて、どういう人口になってくるかと。当時の実績としては 2 万 8 千人ほどであったと思いますけれども、それを基準点において 2040 年をみると、社人研の調査として 16,400 人程度という将来推計数値が出ていますけれども、それをもう少し努力して上げようということで 18,800 人を将来目標に置いた、ということでもあります。</p> <p>その時に議論になったのが、当時一人当たりの合計特殊出生率 1.4 ぐらいだったものを 1.8 位まで少し上げよう、少しがんばろうと。国として人口を減らないようにするためには、2.08 を保てば人口はプラスになる。ただ、いま申し上げたとおり、1.4 から 2.08 はなかなか厳しいだろうということから、1.8 という数字を確か挙げたと記憶しております。その結果として 18,800 人という数字が出てきた。さらにはその過程においては転出者と転入者を差し引きゼロにしよう、そのようなことを合わせて 18,800 人という人口が出てきたと理解してございます。そういうことの人口をキープしていくための施策として、地方創生総合戦略が出てきたというようなことでもあります。</p> <p>今日は、平成 29 年の成果指標が出てくると聞いておりますので、その話をいただいたうえで議論をいただき、その後には、次の 2020 年以降の議論を少しさせていただきながら、今日の時間を過ごしたいと思います。</p> <p>それでは、(2) ②人口に関する分析及び基本目標における数値目標の分析を事務局からご説明願います。</p>
事務局	資料 1、2 を用いて分析結果を説明。
会長	<p>いま、詳細に人口についてご説明頂きましたが、少しわかりにくいところもあったと思いますので、資料 3 をご覧ください。私から補足をさせていただきます。</p> <p>総合戦略を作るときに、平成 25 年というところで 27,323 人という数字があります。これが実績で基準値となるわけです。そこから、2040 年まで推計していった。その時に 2040 年が 18,800 人というふうにこの戦略を立</p>

てたと。一方で、社人研の資料では1万6千人ぐらいになるということで2千人ぐらいギャップがあったわけです。

それで、これを見ていただくと、推計した点線は5年ごとの推計値を結んだので、最初の推計値が平成27年の26,527人、それに対する実績値は26,401人ということで若干下回っている。この時に社人研の推計値は26,487人ということで、社人研の推計値よりも下回っているので、このままいけば2万6千人を切ってしまうような形になってしまうかもしれないということでしたけれども、少し持ち直しをして、カーブが緩やかになっていることがここで見受けられる。その要因として大きいのが転出者の減少であり、差し引きの社会増減が直近では平成30年に74人の減少と2桁になっているということだと思います。その一方で、大きな問題として残っているのが、資料1の表1の出生数ですよね、平成25年には149人の赤ちゃんが生まれたわけですがけれども、平成30年には121人ということで、長期低落が止まらない。その一方で、高齢者の方が増えてくるわけですから、死亡者は微増の傾向にあり自然増減が300台に乗っているということです。これ何とか解決しなければならないだろうと。

それから併せて表2を見ていただきたいのですが、総人口に占める(15歳~39歳の)女性の割合が、平成12年には14.1%であったものが平成30年には7.8%に減っている。これは15歳から39歳の男性・女性人口ですから、男性でいえば働きを始める若者、女性でいえば働きながら出産を始める年齢の割合が、2000年から2018年までで半分強まで減っているということが大きな問題。男性は14.3%から8.3%になっているので、男女間の差で比較すると2000年には0.2ポイントであったものが2018年には0.5ポイントまで広がっている。このことから、若い女性のほうが市外に出て行ってしまっているということが推測できます。そうすると、若い女性をどのように留めるかということがこれからの大きな課題になるだろう。

もう一つは、資料2を見ていただきたいのですが、この戦略策定時にはもっと細かい地区別の議論もさせていただきましたけれども、今回は八幡平市全体と旧町村単位での階層別の人口割合を出しています。この中で我々が共通認識を図らなければならないのは安代地区、平成27年度時点でも結構高齢化が進んでおりましたけれども、平成29年には65歳以上の高齢者が50%を超えてしまう。その一方、1歳から14歳までの子供たちは6.8%という数字になってしまう。ここをやはり認識しておく必要があるだろうということが、この表では言えるのではないだろうか、というふうに思います。

何か今の人口関係について、ご質問やご意見等ございましたらお願いいたします。

ないようであれば、このような認識を踏まえて、指標の分析に入りたいと思います。事務局お願いします。

事務局	資料3を用いて基本目標における数値目標と施策（プロジェクト）の分析結果を説明。
会長	かなり膨大な資料になりますので、詳細な説明をしていくと時間がかかりますのでポイントを絞って説明をいただきました。 委員の皆さまのほうからご質問はありますでしょうか。
会長	いくつか私のほうからお伺いします。 基本目標で定めるKPIの中で、農業純生産額が今回出ないので、農業産出額に代えて数値を出していただいているが、これは大きな変動がなく推移しているという説明があった。一方で市の基幹である「りんどう（切花）」と「ほうれんそう」の販売額はいずれも下回っており、なにか補填をしているのか、数字のマジックがあるのか、それをどのように担当課としてお考えなのかお聞かせいただきたいと思います。
農林課長	数値につきましては、天候による生産量と単価の関係が密になっており、例えば「ほうれんそう」の生産が順調であり単価が高い年もかなりあったということですが、昨今は生産量が全国的に増えており、単価が安い年が続いておりまして、生産者が離れている状態と分析しております。 反対に、「りんどう」につきましては、生産者の人口が減っておりますが、面積拡大をしてかなりの生産者が出荷をしている状態で、反対に言えば小規模農家が高齢化により量を出せなくなっているという状況でございます。
会長	確認ですけれども資料4の1ページに書いてある農業産出額というのは販売額ではないと。何らかの係数を入れてこれくらいの産出額になるだろうと。でも、実際の取引である販売額については、実質価格であるので下がっているという理解でよろしいでしょうか。
農林課長	その通りです。
会長	27年、28年、29年と、ずっとC評価のものがいくつかありますけれども、その中でいくつかに絞って。動いているのだけれども、なかなか届かないというものは努力をしている最中だと思うのですが、実績もゼロというものがあります。例えば、⑤健康リゾート強化プロジェクトは、実績なしとなっていて、コンテンツ造成を行う機関、実際に受け入れを行う事業者などの調整が行われていないため、なかなか進んでいないというようなことだろうと思うのですが、これは野心的な指標を入れのだけれども実際はそこまで至っていないのか、他に何か原因があるのかをお伺いしたいと思います。 それともう2点、⑩子育て支援サポートプロジェクトでは待機児童数の目標6に対して40という数字が挙がっている。原因というところでは保育士が確保できないという課題がある。それでも、出生率を上げて子供を増やさなければいけないわけで、これはやはり最重点的に取り組むような課題ではないかというふうに思うわけです。そのときに、目標値の考え方が

	<p>確か 121～125 人の出生数で考えて、待機児童の差が出てしまっていると言えるわけです。これは少ししっかりと、若い女性も働くということが大事だと思うので、こういうところは手厚い施策をするべきではないかと考えます。</p> <p>それから、⑫出会い・縁づくりサポートプロジェクトもすごく大事で、いまの若い男女、なかなか結婚しない若者が増えてきているので、出会いをつくるということで、120 人の参加目標に対して昨年は少し盛り返して 72 人ですけれども、残念ながら婚姻数に関してはゼロになってしまったと。結果としてはなかなか難しいのですけれども、これについてどのようにお考えで、どのように改善していったら、若い男女の出会いがあって、場合によっては結婚までつながるのか。以上 3 点について、担当課のほうにお伺いいたします。</p>
商工観光課長	<p>⑤健康リゾート強化プロジェクトについてご説明いたします。</p> <p>このプロジェクトにつきましては、当地は温泉ということもありますので、健康というところでは温泉の活用を考えております。また、地元の食材を活かした「食」を温泉と併せながら、滞在型の観光パッケージということで考えたところがございますけれども、「温泉と食」はコンテンツとしては良いのですけれども、商品造成となると行政主導ではうまくいかないと思っております。そういった中で、DMO を設立させていただきましたので、これからはその DMO を活用させていただきまして、このような「温泉と食」を併せ持った観光の商品造成に繋げて行きたいと考えております。</p>
地域福祉課長	<p>2 点目の待機児童のお話でございますが、実績値は年度末の待機児童の数でございますが、年度当初はほぼゼロでございます。年度途中で育休が終わるということで、ゼロ歳児の入所申し込みが増えてまいります。それで、年度途中で待機が増えて、29 年度には 40 名となったということがございますが、30 年度末は 29 人となる見込みですので、改善の傾向にあると言えます。なお、育休明けで復職したいということで申込なさるのですが、入所できないとなり育休延長されている方が大部分であります。</p> <p>また、保育士確保につきましては、30 年度から新たに民間に就職した保育士さんに 3 年間毎月 1 万円ずつ差し上げるという新しい事業をつくっておりますので、そちらの評価を見極めてまいりたいと思います。</p> <p>それから、3 点目の出会い支援ですが、29 年度は婚姻数ゼロでしたが 30 年度は 1 組ございます。バスツアーが昨年度好評でしたので今年度も 2 回行いました。カップルは結構成立するのですが、その後のフォローがないことで、出会い支援推進協議会からも市でパーティー参加後のフォローをしたほうが良いとの意見をいただいておりますので、どのようなことができるかということで検討しているところでございます。</p>
会長	<p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>委員の皆さまのから、いまの説明に関してでもよろしいですし、新規のご質問やご意見でもございませんでしょうか。</p>

	<p>それでは、私から委員の皆さまにお伺いしたいのですが、地域おこし協力隊として新たに八幡平市においでになったお二人は、女性にとって八幡平市は働きやすい環境だと思われるかどうか、こういうところが課題ではないかということがあれば、ぜひご発言をお願いします。</p>
委員	<p>私は生まれが東京新宿で海外でも暮らした経験もありますが、今までで初めて八幡平市がずっと住んでいきたいと思った場所です。任期中初年度に出産し、いま2歳の子供がおりますが、身寄りもない状態で暮らし働いているのですが、ご質問にお答えすると、とても暮らしやすいです。</p> <p>一番は行政の方々のサポートとか、どこに行っても子供に対しての温かい眼差しや声掛けをいただき、こちらが求めれば応えてくれる環境があると思います。また、医療のほうでもサポートもありますし。保育所では待機が出たりするところもありますけど。</p>
委員	<p>私は昨年の9月にこちらに来ました。きっかけはスパルタキャンプというIT関係の取り組みがご縁でこちらに参りました。私はこれまでインターネットを使って仕事をしてきましたので、八幡平市はWi-Fi環境が高速で整っていることが、移住を決めた要因の一つとなっております。</p> <p>これまでインターネットのクラウドソーシングを使って仕事をしてきた経験から、市民の皆さま、とくに女性になるんですけども、やり方を教えることで市民の皆さまと交流するという取り組みを企画して行ったところ、最初定員6人で募集をしましたが6名の方が参加され、比較的30代40代の若い女性の方でも、より働きたいという意欲のある方がいらっしゃるという実感です。私自身もこれから市内で働いてまいりたいと考えておりますけれども、若い女性が働きやすい環境なのではないかと思います。</p>
会長	<p>それでは、もう一人子供たちの関係で委員はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>私には3人子供がおり、1人は保育所、2人は小学校に通っております。私自身は申請してすぐに保育所に預かっていただいたこともあり、すぐに職場復帰でき助かっているのですが、周りのお母さん達から、決まらなかったと聞くこともあり、なんでだろうと思うことがあります。仕事もしたいところだけど、待機により仕事に復帰できないことになり、生活の部分でも大変なところもあるだろうと思います。保育士が足りないということがあるとは思いますが、もうちょっとうまく仕事復帰できるように考えていただけないかなと思います。</p>
会長	<p>先ほど、保育所に入れなくても育児休業を延長されているという説明がありました。会社の理解があれば、もう少し家庭で赤ちゃんを見ることができると思うのですが、それは市内ではどういう感じですか。</p>
委員	<p>育児休暇、延長となると申請しにくいという部分があります。一方で、仕事を進めるうえでは、人手が足りずに復帰して頂きたいところもあります。今職場に2人の妊婦さんがいらっしゃるのですが、できれば保育所に預かってもらって、育休を延長せずに来ていただきたいというのが、会社</p>

	の立場としての本音です。
会長	今、女性の働き方や育児の問題のご意見を伺いましたけれども、その他に何かご意見があればお願いします。
委員	<p>保育園の立場で申しますと、職員の確保が難しいのはそうなんですけれども、4月の時点では待機児童が出ないようになんとか職員を確保しておりますが、その後、生まれてくる子供がいらっしゃるので、その人達に合わせるために、8月、10月に職員を確保するのに四苦八苦している状態で、採用が難しく待機をしてもらっているのが現状です。4月の段階で、先を見越して職員を確保できればいいのしょうけれど、そこまで人件費の余裕はないですし、逆に言えば、次の4月に例えば児童が10名減ればやめていただかなくてはならない状況になりますので、民間の保育園としては、入所人数に合わせて保育士を用意しなければならないのですが、そのやりくりが非常に難しいです。どうしてもゼロ歳児だと3人に対して1人の保育士が必要となるので、ゼロ歳児の待機児童10人に対して3人の保育士が必要になり、翌年1歳児になると1人いなくなるので、非常にやりくりが難しい状況があります。</p>
会長	<p>他の自治体では、プチ勤務といって短時間勤務を導入して、例えば自分の子供が少し大きくなって手が掛からなくなった保育士の資格を持つ方に短時間手伝ってもらったりしている。本来なら正職員のほうがいいのしょうけれど、難しい場合にはプチ勤務のような形で流動化が図られるような、場合によっては行政の支援があるといいだろうと。これから大事なのは、子供たちをどのように地域が面倒を見て、お母さん方がどのように働いていくのかということになると思いますので、引き続きご検討いただけるとありがたいと思います。</p>
委員	<p>私が八幡平で何がすごいと思ったと言えば、地域の方が、本当に子供が好きで、子供が騒いだり遊んだりしているのを微笑ましく見てくださって。でも、自分は孫がないからとか、遠くにいるからとか。基本的に八幡平の高齢者と言われる世代の方は農業に関わっていらっしゃってお忙しいんですけれども、中には手を余している方もいらっしゃって、とても子供をみるのが上手なご経験があったりもするので、もし可能であれば、婚活イベントとかいろいろなものの一環として、高齢者の方が子供を見るようなシステムというか、実際は難しいと思うのですが、せめてその集落だけではなくても、いろいろな世代が交流できる企画があれば、お互いに知り合って。実際に、私は温泉郷の女性と知り合って、その方は保育士とか資格はお持ちではないんですけれども、1時間2時間預かっていただいて用事を済ませるということができました。その女性に喜ばれて、私も助かってという関係を築くことができました。知り合えるきっかけづくりができればいいなと感じています。</p>

会長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>子供たちは、当市に限らず日本の宝なわけですので、そういう子供たちがしっかり育ちながらお父さんお母さんが働ける環境、しかも高齢者の方々にとってはある意味では生きがいを感じられるような。ただ、問題なのは保育士の資格あるなしに関わらず、信頼関係がないとなかなか預けられるというものは難しいと思うので、出会いの場とかそのようなことをしっかりやっていく。または、危ない目に合わないようなサポートしていく仕組みが必要だろうと。</p>
委員	<p>今のお話の中で、働くお母さんのサポートという話なんでしょうけれども、子育てしているお母さんのサポートも本来であれば必要だと思うので。先ほどあったように専業主婦の方でも1時間2時間用足しをしなければならぬ時に、短時間保育をしてもらえる場所がなかなかないと。ぽって行って預けられる場所があれば、だいぶストレスも解消されるのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>別なところで子供が遊べる環境というのが必要との話がでました。そのような話を、子供目線や働く女性だけではなく、専業主婦や一時的に専業にならなければならない方を含めた対策をぜひご検討いただければと思います。</p> <p>それからもう1点、整理をさせていただくとやはり産業、製造業であったり観光業であったりという点から何かご意見はないのでしょうか。</p>
委員	<p>八幡平市には企業立地する場所があるのかと質問を受けることがあります。工業団地など準備してあればいいのでしょうか。</p>
委員	<p>八幡平市の産業といえば農業だと思いますので、農業の担い手の育成の観点から農業を盛り上げていくことができればと思います。金融機関としても、その部分について金融支援など考えていきたいと思っています。</p>
会長	<p>お伺いしたいのですが、八幡平市における貸付残高は増えているのでしょうか、減少しているのでしょうか。</p>
委員	<p>貸付残高は減少傾向です。事業性の部分でいけば減少、個人的な部分では増加している。設備投資など大きなものが動いていない。</p>
会長	<p>他に何かありますでしょうか。</p>
市長	<p>先ほど話が出た一時預かりについて、保育士資格がない方が預かることは、法的には可能なものか。</p>
委員	<p>一時預かりは、無認可や法律に準じないでやってらっしゃるところもあるかもしれません。</p>
市長	<p>大更駅前の顔づくり施設に、親御さんと子供が集える施設のようなものを構想しているが、一時預けられるような場所があれば便利だということか。</p>
委員	<p>そうですね、あればいいと思いますが、盛岡では一日30人を超える人が来る、そうすると預かるのに何人必要かということになる。また、予め</p>

	<p>預かる人数が決まっていれば人を回せるが、ちょっとの時間の組み合わせで人数が不明な場合、ある程度余裕をもって人員を配置すると効率性が担保できなくなり、万が一事故があったときの責任問題にもなりますので。個人レベルでは、お隣のおばちゃんに預けていくということでもいいんですけど、きちんとした場所と人材を確保したほうが、預ける方が安心して利用できると思います。</p>
委員	<p>法的にというとその通りですけども、私が考えているのは、昔ながらの預かってもらうという関係づくり自体は、すごく地域の魅力になると思うんですね。いま、人の関係も希薄になっているので。大きな、そういった法的にも問題ないシステムになっているところはもちろん必要だと思います。一方で、私がやろうとしているのは、託児付きのカフェみたいな感じの、働く場と屋内を使ったあとはちょっとしたお店とか一息つける場所を作ろうとしているんですけども、実際奥州市で行っているところでは、託児付きのカフェができていて。そういった場所が少しでもあれば、ちょっとお茶っこ飲みに来たという感じで地域のおじいちゃんおばあちゃんが来れるようだったりすると、結果的にそういうつながりができるのではないかと考えています。個人レベルで理想論かもしれないんですけども。</p>
会長	<p>法律できちっとやると、どうしても責任問題とか経費の問題が出てきてなかなか難しくなってしまう。奥羽市の事例は、お茶を飲むついでにお店の奥のほうで見ていただけるというか、自由に遊ばせるというか、それは地域の信頼関係がないと難しいだろうと思うのですが、その信頼関係を民間レベルでどのように醸成していくかというのが大きな課題で、そこは役所が直接入ると責任問題があるのでなかなか難しいと思うので、その前の出会いの段階までなら役所のほうでいける部分があるだろう。あとは、民間とか自分たちの中でしっかりと考えてもらうことがひとつあるだろうというようなことですかね。</p>
委員	<p>婚活もかなり個人的な問題に入っていると思うのですが、そこで、行政でそういった制度を作るときに理解して頂けたりするベースがあったりすると、地方で住んでみたいとか暮らしてみたいという人にとっても、全く縁がなくてもそこに来る一つのきっかけになるんじゃないかと思います。</p>
会長	<p>まだまだ議論があろうかと思いますが、次の議題に入ります。</p> <p>全体評価ということですけども、私どもがいま議論させていただいている八幡平市のまち・ひと・しごと創生総合戦略（H27-H31）は、かなり良くてできていると私は思っているのですが、初めての試みで市の総合計画との整合性や5年間という短期の中でどうしていくかということだったと思います。で、次にまた5年間の計画を作ることになるだろうというふうに思っております。全体評価の前に国の有識者会議の資料がありますので、それを踏まえて委員の皆さまには少しご議論をいただきたいと思いますので、事務局から説明をお願いします。</p>

事務局	資料【まち・ひと・しごと創生本部「第2期『まち・ひと・しごと創生総合戦略』策定に係る有識者会議（第1回）議事次第、資料3】を説明。
会長	<p>この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」については、人口は中長期を見通してどんどん減っていく。そのためには地方でまず活力を高める必要がある。今の最大の問題は、私は最大の問題だとは思わないのだけれど、東京圏に若者が集まること、ここ数年は12万人程度ですが、この問題は少ない地方の若者が東京に行ってしまうことなのです。その12万人行った若者が戻ってこないことが大きな問題。ですから、東京の中で住む。東京に住むと子供をつくることはなかなか難しい。そうすると東京は1、2位の出生率で若者が増えても子供が生まれず、子供が生まれずからまた若者を呼び寄せるといった悪循環になっていって、地方はどんどん若者を出して行って、高齢者しかいなくなる。それをどのように変えていくかというのが、まち・ひと・しごとの大きな流れになっているということで、第1期は全国一律ドンで作りなさいということで時間のない中頑張ったということだと思います。それが第2期は地域の特色を踏まえて、例えば盛岡市、滝沢市と八幡平市を比べると、地域の違いは当然あって、八幡平市は八幡平市の魅力、課題をしっかりと踏まえた総合戦略を作っていく必要があると思うわけです。</p> <p>国のポイントとして、第2期に向けた推進ということで項目が4つ挙がっていますけれども、まず一つ目の「人材育成等・関係人口」については、移住はなかなか難しいので、関係人口とか交流人口と言われる人たちを増やしていく、そういう施策が出てくるだろう。二つ目の「稼げるしごとと働き方」については、これまで、地方には仕事がないから若者が出ていくという話が一般的で、だから企業を誘致するとか、工場を誘致するという事になったわけですが、もう一度考えてみると、そうではないのではないかと。地方にはいろんな仕事があるはず。ただ、そのいろんな仕事で1つの仕事でお金が十分とれるかどうかというところではない。例えば、商店街の商店がどんどんなくなって行って、でもお店が欲しい、そこに1店作ったとしても暮らすだけの収入があるかどうかというの、地域の人口が減っているからなかなか難しい。でもそういう仕事がいくつかまともなれば、地域で暮らしていくことに可能性が出てくるかもしれない。または、八幡平市のように基幹産業である「りんどう」のように、農業の中でも新しい分野で売り方を考えれば、また売れるようなものがあるかもしれないし、安比塗のような世界に通じる漆塗りもある、そのようなことをもう一度スポットライトを当てながら、働き方を考える。例えば、東京でいえば満員電車で揺られて片道40分かけて丸の内まで行かなければいけないけれども、八幡平であれば車で5分も走れば仕事場に到着、あるいは東京にいれば誰も付き合いがない、でも八幡平なら知り合いの中で仲の良い人が出てくれば、短時間であれば子供を預かってもいいよ、というような暮らし方もできるであろう。次に、3つ目の「未来技術 Society5.0」は、</p>

なかなか難しいのですが、いまはインターネットがどんどん進化してきて、更にはAIという人工知能が出てきて、VARとかARとか仮想現実だとか、そういうものが出てきて、ロボットというものが出てきて、そうすると働き方が大きく変わるだろうと。例えば、八幡平市に居ながら東京の仕事ができるかもしれない。これまではメールのやり取りでしたけれども、それが大きな画像の中であたかも隣に仕事の相手がいるような形でお付き合いができて、東京の方、場合によっては東京ではなくて世界と、間に自動翻訳機が入れば、外国語がしゃべれなくてもそういうことが可能になるのではないかと。田舎の中でそういう体験ができれば、働きやすい暮らしやすい、ワークライフバランスという言葉がありますが、それはワークとライフのバランスをとるわけですが、田舎の場合にはワークライフバランスではなくて、ワークとライフがリンクする、暮らしながら働くというような時代がSociety5.0のなかで来るのではないかと考えております。4つ目の「少子化対策。前世代活躍のまちづくり」については、高齢者がいずれ増えてくるわけで、高齢者が社会参画をし、社会参画をしなくても、市内に出て行って若い人たちや子供たちと交わるということが必要であろうというふうな考えが出てきている。このようなことがより具体的になって、12月頃に国の総合戦略として出てくるだろうということだろうと思います。

ここで、国民の希望出生率が1.8、先ほど言いましたように2.08が人口減少しないということであれば、例えば1億人程度の人口を維持するためには1.8、八幡平市は2040年に18,800人を目標にするには、1.8を新しい目標にするというようなことがあがっているわけですが、そのようなものがこれから必要になるだろうと考えています。

また、もう一つ申し上げますと、「JR花輪線の乗車人員の引用について」という資料がありますが、17の施策の一つに⑬地域拠点（小さな拠点）等活性化プロジェクトがあり、その指標（KPI）となっているJR花輪線大更駅1日当たり利用者が275人の目標に対し、250人まで減っております。またもう一つ、広域生活路線バス（県北バス）乗車人員の基準目標が35万人になっているわけですが、少しずつ減ってきて、現在は30万7千人と減ってきている。このようなものが減ってくると、地域の子供たちやお年寄りたちの移動する手段がなくなってしまう。今、自動運転技術がどんどん進化して、お年寄りでも自動運転車に乗れば行けるのではないかと話がありますが、やはり、それは実用化にはまだ10年20年かかるのではないかとされている。その間に、八幡平市のような素晴らしい地域が在のほうにあって地域の文化がある。そこにお年寄りもいなくなってしまえば地域の祭りや文化が消えていく可能性がある。それを防ぐとすると、やはり交通網をもっと考えていく必要があるだろうと。乗車人員の数字が多いか少ないか、それからどう減ってきているのか、増えてきているのか。JRの乗車人員が減れば、JR東日本は便数を減ずると

	<p>ということになります。商売ですから。減ずれば当然不便が増して、高齢者が出歩かなくなってしまう、あるいは自動車に乗ることになる。高齢者が自動車に乗ることになれば、いろいろな問題が起きるかもしれない。もっと言うと、バスとの連携も考えていかなければならない。そういうことを、もう一度次の計画では考えていく時期に来ているのではないかと思います。いま、MaaS（マース）という言葉があります。MaaSとは、Mobility as a Service（モビリティ アズ ア サービス）の略で、「出発地から目的地への移動を最適化し、サービスとして提供する」ことであり、すなわち移動の手段をサービスとして考える、それは何かというと、我々の時代は車を持つことがステータスで、車が欲しい、車があればどこへでも行けるという時代でしたけれども、これからは高齢者が増えて車を運転できない人たちが増えてくる。そうすると、車、バス、電車を一体として繋がって動けるように、例えば、安代の方が一週間に一回でも大更とか荒屋新町で買い物ができたり食事を楽しむことができたり、そのための交通サービスがどうあるべきかということを皆で真剣になって考えなければいけない。でも、自分で車を持って使いながら考えていたら乗降客は増えないわけですから、それはちゃんと考えなくては、JR、バスの乗降客は増えないし、便数も増えないというふうに考えます。こういうことが、次期の戦略では一つ重要なポイントとして考えていく、それは逆に言えば、いま八幡平市が力を入れているインバウンドや国内観光客が来た時に、じゃあ、安代の安比塗工房に行きたいとなったときに、盛岡から何分でそこに行ってその日のうちに帰れるのか帰れないのか、行けるのかどうかかわらなければ、レンタカーを借りればよいという問題ではなくて、それはやはり公共交通機関で行けるのかどうか、行けなければ泊まることを想定していけば良いわけですし、そういうことがわかる情報を提供することが、これから観光客にとってもすごく大事なことになるだろうと思っております。これは、住んでいる方と観光客が両方とも公共交通機関が、要するに本数を増やすということよりも、いつまでにどこに行けて、どれぐらいの時間がかかって、その日のうちに戻ってこられるのか、戻ってこられなければ泊まらなければいけないのかどうか、それを考える情報を提供するということがまず大事。そうすれば、その日のうちに戻ってくるような方策をどうするのか、タクシーを使うのかどうかという判断になってくると思います。そういうことを考えていくということに次の戦略ではなっていくのではないかと個人としては考えております。</p> <p>ぜひ委員の皆さま方にも次回の指針というか戦略に向けて、今日お話がいろいろ出てきた中で、またはKPIとか事業を見て、こういうところがより充実されれば、八幡平市がもっと暮らしやすくなるし、もっと生き生きとするのではないかとということをご意見いただきたいと思っております。</p>
委員	<p>新しい計画を立てるにあたって、第1期5か年の計画が本当にその住民あるいは地域のニーズを反映したもので、それに正しく応えたものである</p>

	<p>かというところを検証することがやはり必要なのではないかと思いました。具体的には、もちろんK P Iで評価をするということはもちろんのことなのですけれども、それ以前の手段、住民アンケートであるとか、関係者へのヒヤリング、ワークショップを開くなど、そういった手段で第1期の計画を改めて評価をするという計画はありますでしょうか。</p>
事務局	<p>今のところ具体的などころはなく、本日の有識者会議のご意見をもとに第2期総合戦略策定の工程を検討したいと考えております。</p>
委員	<p>もちろん効果検証をするということも重要ですが、いくつか例を挙げましたけれども、アンケート、ヒヤリング、ワークショップのような形で、新たに住民の協力が必要な事業、取り組み等も少なからずあると思いますので、どういう事業に必要とされていて、どういう人が必要であるかということと呼び掛ける目的で、住民の皆さんに語りかける手段としてそのような調査が必要なのではないかと感じましたので提案させていただきます。</p>
委員	<p>今回の会議に繋がればいいと思うのですが、少子高齢化という課題があって特に人口減少が進む中でも高齢者が増えているということで、福祉の担い手が少なくなっていて、昨今盛岡圏域でも小規模施設の閉鎖とか、閉園が起きてきています。ですので、今後施策の中では⑨生涯活躍のまち構想プロジェクトのK P Iである雇用創出数の目標値が8人になっていますが、これでは全然足りないと思います。介護離職がとんでもないスピードで進んでいくと思われまますので、今日の議論にはならないと思いますので、この辺りをどのように向上させていくのかという辺りを、我々現場のほうから情報共有させていただきたいと考えております。</p>
委員	<p>5か年のうちの3年のところでK P Iの評価がずっとCであるものがあったりして、目標値を下げた全部の評価がAとかBになればいいのかという議論があるのかなとも思いますけれども、全体的に目標数値を見直す必要がでてくるものと思いますし、先ほどお話がありました市民の皆さんと一緒に検証したりとか、どうしたらいいのかを考える機会が必要なのかなと感じました。</p> <p>国の指針がありましたが、現状でもなかなか難しい状況のなかで、新しいこととしていかなければならないというのも、難しいだろうなとも感じましたが、効果が表れている部分を伸ばしていただくとか、再検証するだとか、そのようなことが必要だろうと思います。</p>
委員	<p>若い世代、20代30代が場所にとらわれない働き方、暮らし方をしているんですけども、それでも八幡平を選んでくれるようになるには、行政とか地域の理解が必要なんですけれども、私が八幡平に住みたいと思った理由が、八幡平の方々は風通しがいいというか、開拓者精神もあって。そのあたりがすごく魅力があって。あとは大きな企業とか、リゾートだったりいろんなお仕事をされている方でも、個人や一般の人とも気さくに関わってくださったり、個人的な願いをしても応えてくれるような地域性が</p>

	<p>あるので、そのへんの大きい観光リゾート、バブル期もあったと思うんですけども、一人ひとりの力とか魅力とか繋がりが、八幡平のエネルギーになるような気がするので、引き続き行政のサポートがそういった目線で、どうしても大きいほうに目が行くと思うんですけども、サポートがあるとすごくいいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>プロジェクト⑨のところで、2地域あるいは2拠点居住という流れがあるんですけども、いまこの最先端でアドレスホッパーと呼ばれる若い方々がいらっしやいまして、それはもう2拠点どころか多拠点、全国引いては世界中どこでも行って暮らしてみても、ある意味住所を持たないで生活をしているという方なんですけれども、本当に若い世代が関心を持ち始めているので。アドレスホッパーで八幡平市を訪れた方もいまして、どうして八幡平にまた来たいと思ったかという、人と関わって、人の温かさに触れてから。そのような住む場所に拘らない人達が、八幡平という場所に来て、さらに定住という形にはならないとしても、他の地域に行ったときにここは良かったと言ってもらえることが宣伝になると思います。八幡平に来た人が人や魅力に触れて、その方々が他の地域に行くことによって広く魅力が伝わって人を取り込める環境になっていくというのがすごくいいのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>小学生、中学生の人数が減ってしまっていて、安代や松尾だとクラブ活動の団体競技ができなくなったり、個人競技の細かい部がなくなったりと。また、大更小学校でもすごく運動をする子と全くしない子の二極化による差が出てきてしまっていて、子供たちが減った分、私たちの幼少期には公園とかで年上から年下まで遊べる場所があったんですけども、八幡平市内を見ても、子供たちが野球をしたりサッカーしたりする場所がないです。それには、学童クラブにたくさん行っているということもあって。一方では、小学校1年生の4月1日から保育園には来れないので、小学校に入るまでの間、お母さんたちが原則としてあるので、その階段が心配されているケースがありますし、その後1年間、2年間位、ほとんどの子供が学童に入っているんですけども、遊ぶ場所とか、入っていない子とのコミュニケーションとか、学童に入っていない子がいて、周りの子供たちが学童に入っていると家にいる子供の周りに子供がいない状況がある。あるいは大きくなって5年生、6年生になったときに集まるような場所がないというか。部活で忙しいんですけども、それぐらい年代のときにそのような場所があって、関係性が築けて大きくなっていくと、もちろん外から新しい方が入ってくるのも必要ですけども、PTAの話し合いの中で聞いていても、数が減って、関わりも減って家も離れているので、八幡平市大更だけでなく西根、松尾、安代の子たちも知り合いになって関係性を持てるようなことがあれば戻ってくるとか、帰りたい、ここで育てたいと思う子供たちが増えてもらえればいいと思っております。</p>

委員	<p>八幡平市は、どのコミセンにも立派なホールがあるので、スクールバスのようなイメージで、そこに子供たちが集まってこられるような、人数が必要なスポーツが月に1回でも2回でもできるようなシステムがあると、繋がりも作れるし、大人になっていくときに、小さい時やってたとか、西根、松尾とか枠はありますけど、この週、この日にどこに行くと、この競技ができるとか、ある程度年齢がいけばだと思っんですけど、八幡平市にはすごく優秀な選手がいて活躍もされていますし。例えばその時におやつとか、給食みたいなものがあれば、ものすごく親は助かるんですけど、何かそういったおやつを提供してスポーツもできるといったことが可能であれば、ものすごく魅力的だと思います。</p>
委員	<p>八幡平市は3町村が合併したこともあって、バランスをとった施策がこれまでは多かったと思っんですけども、尖ったような施策をしてもらいたいということと、子育て支援で3歳から5歳が無料になるので、0歳から2歳をタダにするとか少子化の対策として大胆な施策、しかも所得制限なしでそういったことができれば、子供が増えるかな、八幡平市で子育てをしてくれるのかなと思います。サケじゃないですけども、生まれた場所から遡上して、また生まれた場所八幡平に戻ってくるとか、そういった形になればいいのかな、なんて思います。</p> <p>あとは、市に必要な人材を、平館高校みたいな基幹となる高校があるので、市立化して必要な人材を地元で作るという動きもあってもいいのかな、と。さっきのスポーツの話も、八幡平市はスポーツが盛んですけれども、小林君のように高校は中央に行ってしまう。それが平館高校だったらもっと地元も盛り上がるだろうと考えてみたり。あとラグビーのグラウンドがあったり、田山スキー場があったりと、それに特化というか尖って支援してもいいのかなと。バランスを取り過ぎてしまっているのかなと感じています。</p>
会長	<p>私の方からも、もう一つすごく重要な話として、平館高校の生徒の県内就職率に関連しての話があります。高校卒業して即県内に就職することも大事けれども、いっぺん外へ行って、そういう人たちが戻ってくるといことも大事だと思っんですけども、特にも、一応優秀と言われる人たちは外へ行って有名大学に入ったりして、それが戻ってこなくてもいいんだけど、八幡平のことを絶えず知りながら、絶えず気に掛けてくれる人がいてくれてもいいし、やはり一部は戻ってきて、新しいビジネスを興したり、八幡平市の中でイノベーション的なことをしてもらおうということが必要だと思っんですけども、ところが、今時点では、高校生の県内就職率になっていますけども、そうではなくて、高校生だけじゃなくて、出身者が4年後とか2年後とか、大学や専門学校を終わって戻ってくるとか、そういうことも次期の戦略では追いかけてくれると、そういう人たちにどういう情報を提供するか。八幡平市に限らず東京に県人会があったり市町村会があったり、いろんなところでやっていますけども、そこに高齢の方だけが</p>

	<p>出るのではなくて、若い人たちが集まって、若い人たちが首都圏で活躍しながら八幡平の情報を絶えず市長さんからもらうような、そんなような政策があると関係人口、交流人口が増えてくるのではないかと考えております。</p> <p>一部例えば今の施策でも、丸の内プラチナ大学であるとか、これはどちらかと言えばシニア世代をターゲットとした展開のものでしょうけれども、もっと大事なのは、八幡平市の出身の若者にどのような情報を伝え、その時に「いずれ帰ってくるのを待っているよ」というメッセージを絶えず発信し続けるということをやっていたらいいと思います。</p> <p>それから、観光マネジメントの中で台湾と関西圏の旅行者の話はありますけれども、今度は上海に花巻から定期便が飛ぶわけですので、中国の上海から南の方を狙ったようなインバウンド対策もこれから必要となってくるだろうと。そのようなことを、ただ単に外国人観光客という通り一遍の考えではなく、地域地域というか外国人にも特性がありますので、そこに狙ったような施策が出てくると、私も先ほど遠藤委員がおっしゃったように、尖ったものが出てくるだろうと。私も、遠藤委員と同じように、第1期は国の指針に基づいて作りましたけれども、第2期は地域の特色を活かして、八幡平市ならではの強みとか、そういったものが前面に出てくるような施策になってくれることが大事だと思いますので、そういう面では、事務局サイドでも早め早めの準備をしていただき、いろいろなところからアンケートをしたり話を聞いたりしながら、多くの方が参加する戦略、行政が勝手に作った戦略ではなくて自分たちが関わって作った戦略ということが、八幡平市民にとっても愛着が沸くだろうと思いますので、ぜひその方向でご検討いただきたいと考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>平館高校の件ですけれども、確かに高校を卒業して県内に就職する率は90%以上であり、だから地元の学校が大事なんですよと私は言っているんですが、それ以上に、中学校を終わって盛岡の高校に進学した子供たちが大学に行って帰ってくる率はほとんどゼロです。平館高校を卒業して大学等に進学した人が戻ってくる率はかなりある。そういうところもちゃんと地域に話をしながら、唯一の高校ですから、それを維持して発展させるためには、いまの県教委の考え方を抜本的に変えていただかなければならないし、そういう働きかけを我々がやっていかなければならないと考えています。</p> <p>また、公共交通の話もあつたんですけれども、いま実は八幡平市の最大の課題だと捉えて、例えば高齢者の免許返納も結構あるので、そういうことも考えたうえで、スクールバスも通っている、コミュニティバスも通っている、県北バスも通っている、これを全部一絡めにして、いかにしたら便利に有効に利用できるかというシステムを考えるよう現場とDMOにお話をしております。特に大更のまちづくりということで、かなりの投資をしていますので、富山市とまでいかななくても、少なくとも大更駅前周辺</p>

	<p>に集中するような交通体系が必要だと思って、それに取り組んでいければと考えております。</p> <p>ワークショップの話もありましたが、大更駅前周辺の賑わい創出については、とにかくワークショップを開きました。そこで徹底した議論をいただいて、これは過去になかったことですが、そういうことをやって今の事業に取り組んでおりますし、これからはいろいろな施設の計画がありますので、当然ワークショップは最大限活用しながらやっていければと思っています。</p> <p>上海空港とのインバウンドの関係ですけれども、定期便は安比のために作ったようなもので、それでもせっかく作っていただいたので徹底して、あそこはハブ空港ですから、そこを起点にヨーロッパや東南アジアに行ける空港ですから、それを使った誘客対策をやっていかなければならないと思っています。</p> <p>あと、委員にお伺いしたいのですが、福祉団体として外国人労働者に対する受け入れ態勢をどのように考えていらっしゃるのでしょうか。</p>
委員	<p>国が介護分野で6万人の受け入れを進めると発表されてから、ここ半年ぐらいで我々の業界でも勉強し始めたところです。まず、実情からすると盛岡に福祉の養成学校がありますが、82人定員に対して十数名の入学しかいらっやらない、もう皆無に等しい。ある養成学校はもう閉鎖も考えているというのが現状です。そもそも福祉に道に進む人がいないというのが現状です。養成学校の方々は次の選定に入りまして、福祉人材、外国人雇用の管理団体を立ち上げております。具体的には、モンゴルやベトナムから雇用を創出するような動きがあつて。その方々とお話をするのですが、彼らは技能実習なので3年で帰ってしまう。また、N4からN3という級があるんですが日本語も学ばなければなりません。我々からすれば、受け入れをしたいんですが、非常にコストが掛かる。3年で帰ってしまうんですが、だいたい300万円前後の費用が福祉施設には求められますので。例えば10人雇用すれば3千万円、3年で帰ってしまうと。とても、我々一法人とすれば、その選択肢は非常に難しいと思っています。それぐらい投資して10年居てくれればいいと思うんですが、わずか3年となると消極的に考えざるを得なく、地元雇用だったり、東京圏であつたり国内での採用を考えているところです。</p>
市長	<p>よく話題にするんですけれども、東京は今の人口だと100メートル四方に45人なそうです。あと20年後どうなるんですかと。やはり、もうちょっと地方を大事にしてくださいと言っているんです。このままでは20年後の東京は想像できないです、高齢者で。</p>
会長	<p>数千万単位で高齢者が増えていきますので、大変な時代を迎えるんだろうと思います。あと今、東京圏では岩手県と同じぐらいのエリアの中に3千5百万人ぐらいの人が住んでいますが、高齢化の問題は重要なことかもしれません。</p>

	<p>地域の魅力があつて、八幡平市にも応分の若者が来るように、ぜひ市だけではなく、ここにいらっしゃる委員のみなさんにいろんなところでご意見をいただき、一緒になってやっていくことが求められておりますので、よろしくをお願いします。</p> <p>それでは、一応議事が終わりましたので、事務局にお返しいたします。</p>
	5. その他
事務局	<p>各種計画に係るＪＲ花輪線各駅の乗車人員等の引用について、「八幡平市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についても6箇所訂正する。</p> <p>また、有識者会議を4半期に一回程度の予定で開催していく。</p>
6. 閉 会	

以上